

大峰 前鬼川

2013年7月21日(日) 晴れ

メンバー CL 磯部S (記)、SL 坂野、ヤマメ、岩倉、大竹、山下、小楠、手塚、久保田K、神谷、(以下2名元会員)片岡K、片岡S

「沢登り好きを増やそう第二弾」として、初心者コースでありその碧い水を湛えた淵の美しさで有名な、奈良下北山の沢に行ってきました。行きは伊勢自動車道・紀勢自動車道を使って約5時間。帰りは北上し西名阪国道(といっても高速道のようなもの)で約5時間半。どちらにしても遠いが、苦労していっただけの価値がある素晴らしい渓谷でした。

前夜発、深夜に熊野の道の駅で仮眠。なぜかラジオの音が流されていて寝付けなかった。翌朝、入渓点の前鬼林道ゲート前Pまで、さらに約1時間車を飛ばす。

片岡夫妻とはP手前で合流。今回の遡行ルートを、ピストンでベーシックな5時間弱コースか、入渓点を約1.5km手前のトンネル上流部からの約7時間コースとするか、偵察しながらPに向かう。

ロングコースはいきなり泳ぎから始まる。今回全くの初心者が2名、かつ大所帯チームだ。欲張らずベーシックコースを選択する。

2カ所のPにはすでに車が10台近くあり、支度をしているとさらに車がやってくる。沢ではあり得ない光景だ。どれだけ人気なんだ！奥の吊り橋脇から黒谷に入渓、わずかに戻って前鬼川に合流する。約1km強で100mしか標高をかせがないこのルートは、お助けロープを数カ所使った程度で、快適に遡行できる。



右から逃げれるが、美しい沢に引き込まれる・・・



この透明度。水が無いみたい・・・

じきにお待ちかね、この沢特有の水色がかった碧い透き通った淵だ。この世界が見たくてここまで来たのだ。あえて水線通しで行く。そんないくつかの淵(水深は腿あたりまで)にはいったり河原を歩いたり楽しんでいるうちに、今回メインの2段10mの滝だ。立派な淵を伴っていて見ていて飽きない。



総勢12名！10m滝前で休憩



透明度もバツグン！美しい淵をともなった2段10mの滝

直登は不可能で、左岸の踏み跡のしっかりした道を簡単に高巻く。先行パーティーがいて待ちもあり、一本取る。淵で泳ぐが、そこそこ冷たかった。上がって岩に寝そべることが、暖かくて気持ちいい。プールサイドを思い出す。大竹氏は滝壺に少し引き込まれ気味になって、がんばって泳いだ。高巻いた後は、左岸から右岸に滝の落ち口に近ところを渡渉する。わずか3m位だが、水量が多いとロープを張るべきだ。このルートで一番気を遣うところか。



左岸を簡単に高巻く。残置のロープも必要なし。左に滝の落ち口にいる人が見える



落ち口近くの渡渉ポイント ふくらはぎ下程度の水深で問題な

それぞれの技量・指向の違いで小滝を直登、シャワーライミングしたり、へつたり、泳いだりして自由に進む。これが沢の良いところだ。100m以上の川幅いっぱいのナメも続き、飽きさせない。涼しく快適だ。



ナメが続く..

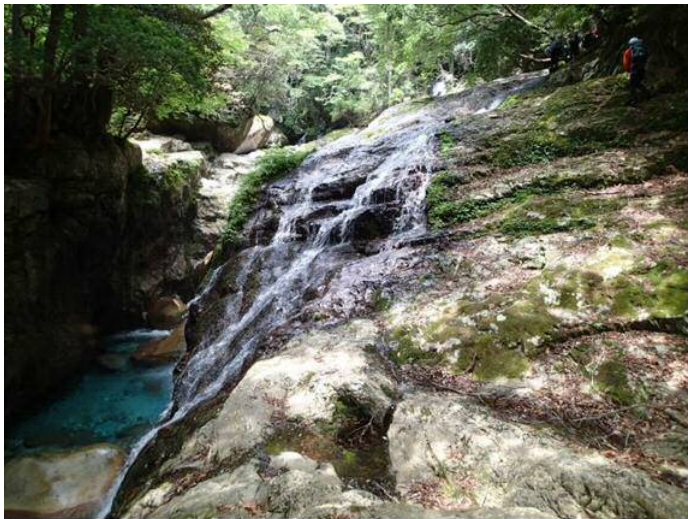


見る人、泳ぐ人



思わずピース！

そのうち不思議な光景に目を疑った。至る所から小滝が箱状廊下に流れ込んでくるのだ。神秘的で自然の造形美に感動した。廊下奥の滝は登れず、小滝の流れ込む広い左岸を歩いていく。ラストの垢離取場（こりとりば..修行者が裏行場に行くために身をきれいにする淵）手前の深い淵では、たくさんの人が泳ぎ、飛び込み、楽しんだ。



神秘の世界.. 右を登っていく



初心者を、クールに助ける坂野氏

結局、3時間弱のコースも、それぞれに楽しみながらゆっくりと登れば、4時間以上かかっていた。これで正解だ。

下りはピストンする予定だったが、残る時間と体力から安全を優先して、垢離取場を横切る登山道から林道に続く道を帰ることにした。しばらくは登りが続き、初心者には少し堪えたが、尾根をのっこと楽になり、余韻に浸りながら駐車場に向かった。



スペシャルゲストの片岡氏 相変わらず果敢に挑戦！

日帰り温泉は、下北山村のきなりの湯にて。食事もそこで済ませます。なんとかその日の内に浜松に戻ることができた。
ちなみにヒルは、たくさんいた先行者に連れ去られていったのか、わずかに（リーダーに1匹だけ）出会っただけだった。

<タイム> 前鬼林道ゲート前駐車場（8:50）－黒谷入渓点（8:55）－前鬼川出合（9:10）－垢離取場（13:50）－前鬼林道ゲート前駐車場（15:30）

以上です。